

5年2組

 「畑」  
 ～心を耕す～


## 夏野菜から秋冬野菜へ

夏野菜が一段落し、秋冬野菜の栽培が始まりました。今は、ブロッコリー、越冬キャベツ、ラディッシュ、ほうれん草を育てています。からし菜も準備中です。2回目の栽培になるので、本やインターネットでどんどん調べ、自ら動き出す子どもたちが多いです。

子どもたちの優しい気持ちもたくさん感じます。例えば、水やりをするとき、ジョウロの先を指で押さえて、苗が倒れないように優しく水やりをしています。



天気がよい日は、「こっちのほうが気持ちいい気がする」と、ビニールや寒冷紗を外して、野菜の苗たちを日向ぼっこさせています。野菜の気持ちに寄り添い、自分が野菜になっているつもりで考えている子どもたちの姿から、心が耕されているなあと感じています。



畑で野菜を育てていると、他の教科とのつながりがあり、おもしろいです。鶏

糞や化成肥料を入れるときは、「グラム」、「リットル」、「1平方メートルあたり」を使います。また、種や苗を植えるときは、「何センチメートル幅」を使います。初めは細かく正確に計算したり、測ったりしていた子どもたちでした。しかし、慣れてくると、「大体このくらいだったな」と、「量感」を働かせるようになってきました。量感を働かせることで、作業効率が格段に上がりました。



右の写真は、土壌のpHを調整しようとしています。まず、これから植えるラディッシュ(二十日大根)に適したpHを調べます(5.5~6.5)。次に、ラディッシュを植える畑のpHを調べます(7~7.5)。調べた結果、畑の土壌がアルカリ性に傾いていることが分かりました。よって、酸性に傾けるため、土壌改良のピートモスを畑に混ぜ込みました。土づくりの大変さを知った子どもたちでした。

酸性とアルカリ性の学習は6年生の理科で、pHは中学校の理科で詳しく扱いますが、その時に今回の学びが子どもたちを支えてくれる一助になってくれると嬉しいです。



右の写真は、ほうれん草の種を植える前に、種を水につけました。なぜかという、少し前の社会科で、「お米の学習」をしたとき、農家の人が米を塩水につけて良質な種を選ぶことを学習したからです。その学習を生かして、「ほうれん草の種も同じかもしれない」と予想し、実際に良質なほうれん草の種を選別していました。結果、発芽したほうれん草は寒さに強く、みんな元気に育っています。

総合的な学習の時間の中で野菜を育てていますが、総合的な学習の時間の中に、今まで学習してきた様々な教科があったり、総合的な学習の時間に取り組んでいくと、今まで学習してきた(これから学ぶ)教科が必要な場面があったりすることがとてもおもしろいです。



調べても分からないことや、調べたことが本当か確かめるため、農業支援センターの方に来ていただきました。

初収穫のトマトときゅうり。自分達で育てた野菜を食べた子どもたちは、「スーパーで売っている野菜よりおいしい」と一言。



とったぞー！！！！